

目 次

はしがき v

第 I 部 「体験的把握」と「分析的把握」

第 1 章 「体験的把握」と「分析的把握」	2
1.1. はじめに	
—「体験的把握」・「分析的把握」と「場」の関わり合い—	2
1.2. 「コト志向」・「モノ志向」と「プロセス志向」・「結果志向」	4
1.3. 事態把握の表れとしての画像	7
1.4. 事態把握と文化の関わり合い	11

第 II 部 日本語「知覚体験表現」の諸相

第 2 章 「視覚体験」に関わる表現	14
2.1. はじめに	14
2.2. 「見」が含まれる表現	14
2.2.1. 「見える」	14
2.2.2. 「見ると」と「見て」	19
2.2.3. 「見る見る」と「目の前」	21
2.2.4. 「見」が含まれるその他の表現	23
2.3. 「顔」	26
2.3.1. 「顔」の「体験名詞」としての用法	26
2.3.2. 対応する英語表現に face が不在の用法	26
2.3.3. 「顔」と対応する英語表現のデータ	30
2.3.4. 〈顔〉を表すその他の表現	31
2.3.4.1. 「面」	31

2.3.4.2. 「色」	32
2.4. 「姿」	33
2.5. まとめ	37
第3章 「時・事象の推移の体験」に関わる表現 ……………	38
3.1. はじめに	38
3.2. 認識の原点としての「イマ・ココ」	38
3.3. 「時」の推移表現	42
3.3.1. 「なる」	42
3.3.2. 「やがて」と英語の対応表現	43
3.3.2.1. 「やがて」はどのように英訳されているか	43
3.3.2.2. どのような英語表現が「やがて」と訳出されているか	44
3.3.2.3. 「やがて」が英訳されない場合	46
3.3.2.4. 「やがて」が日本語訳に新たに付け加えられた場合	46
3.3.2.5. 「やがて」と対応する英語表現のデータ	47
3.3.2.6. 『こころ』における「やがて」の英訳をめぐって	48
3.4. 「事象」の推移表現	50
3.4.1. 類像性の原理における日英語の比較—平面性と立体性—	50
3.4.2. 「S1 と, S2」と英語の対応表現	51
3.4.2.1. 「S1 と, S2」と “When S1, S2” が対応する場合	51
3.4.2.2. 「S1 と, S2」と “S1, but S2” が対応する場合	52
3.4.2.3. 「S1 と, S2」と “S1 to do S2” が対応する場合	53
3.4.2.4. 「S1 と, S2」と “S1 until S2” が対応する場合	54
3.4.2.5. 日本語の S「コト」と英語の N「モノ」が対応する場合	55
3.4.2.6. 本節のまとめ	56
3.5. 時・条件・理由を表す副詞節の生起位置の比較	56
3.6. 「紙芝居的手法」	58
3.7. まとめ：「時の流れ」の方向性に係わる日英語の語法の相違	60

第4章 「感覚・感情体験」・「共感体験」に関わる表現 ……………	63
4.1. はじめに	63
4.2. 「感覚・感情体験」	64
4.2.1. 「～そうに」「～ように」	64
4.2.2. オノマトペ	67
4.2.3. 主人公と語り手の「共通感覚体験」	70
4.2.4. 「感情体験」—「びっくりした」「驚いた」—	74
4.3. 「直接話法」と共に用いられる「伝達動詞」と「感情表現」	79
第5章 「プロセス体験志向」と「結果分析志向」 ……………	84
5.1. はじめに	84
5.2. 「続く」「ている」「つぎつぎと」 —「進行・継続」のプロセス体験—	85
5.2.1. 「続く」	86
5.2.2. 「ている」	89
5.2.3. 「つづいて」「つぎからつぎへ」「つぎつぎに」	94
5.3. 「～かかる」「～ようとする」「～そうだ」「ところ」 —「瞬時」のプロセス体験—	97
5.3.1. 「～かかる／～かける」	98
5.3.2. 「～ようとする」	100
5.3.3. 「～そうだ」	103
5.3.4. 「ところ」	105
5.3.5. まとめ	107
5.4. 「途中」	110

第 III 部 「事態把握」の違いからみた 日米の「映画ポスター」と「文化」

第6章 事態把握の表れとしての映画ポスター ……………	116
6.1. はじめに	116

6.2.	オリジナル版と日本版映画ポスターの背景画像の有無の違い	117
6.3.	オリジナル版と日本版映画ポスターのタイトルの違い	122
6.4.	オリジナル版と日本版映画ポスターのメッセージの違い	129
6.5.	映画ポスターにおける事態把握のまとめ —画像と言語表現の関わり合い—	131
第7章 事態把握のあり方と文化の関連性をめぐって …… 137		
7.1.	はじめに	137
7.2.	〈見え〉と文化の関わりあい	138
7.2.1.	「視覚」が関わる文化現象	138
7.2.2.	「視覚型文化」と行動様式	141
7.3.	日本語のコミュニケーションと人間関係	143
7.3.1.	会話における「共同注意」	143
7.3.2.	日本語表現の「情意性」	144
7.3.3.	日本語コミュニケーションに対する井出 (2006) と池上・ 守屋 (2009) の見解	145
7.3.4.	日本語コミュニケーションに対する西部と芳賀の見解	146
7.3.5.	「集団文化」と「個人文化」	148
7.3.6.	日本語の自己を表す表現と「自己観」と「道徳観」	153
7.4.	「プロセス志向」と文化	157
7.4.1.	「プロセス志向」「結果志向」と文化の関連性	157
7.4.2.	「プロセス志向」と「道」—日本人はなぜ、「天才型」よりも 「努力型」を好むのか—	159
7.4.3.	「プロセス志向」としての「時の流れ」	162
7.4.3.1.	「時の流れ」における「瞬間」へのこだわり	162
7.4.3.2.	「時の流れ」としての「数の流れ」	164
7.5.	「コトの感覚体験」と「未練」	167
7.6.	体験的把握と文学	172
7.6.1.	文学における「四季」と「場所」へのこだわり	172
7.6.2.	日本文学における抒情性と共感性	173

- 7.7. 日本人と自然 176
- 7.8. まとめ—「場」へのこだわりと「共感」— 180

引用文献	185
索引	201
初出一覧	208